

環境省は、9月13日(土)に、名古屋市において「第16回アジア太平洋環境会議(エコアジア2008)」を開催しました。



エコアジア2008本会議

今回のエコアジアには、アジア・太平洋地域からの11か国の代表と、16の国際機関の代表及び稲垣隆司愛知県副知事、松原武久名古屋市長等が出席しました。

会議では日本の斉藤鉄夫環境大臣が議長となっており、「生物多様性」をテーマとして「国際生物多様性年の2010年とそれ以降への道程」や「生物多様性のためにとるべき具体的な取り組み」に関して、アジア・太平洋地域の視点から活発な議論が行われました。

特に、アジア・太平洋地域では生物多様性の喪失は依然として進行しており、この危機を克服し生物多様性の保全と持続可能な利用を進めることが急務であるという現状を認識した上で、「生物多様性国家戦略」の策定・改定とその具体的な

実施の重要性や、我が国が提唱する「SATOYAMAイニシアティブ」を含む「人と自然との共生に係るアジアモデル」の構築・発信についての必要性が謳われました。また、今後の課題として「生物多様性」に対する認知度を社会に広げていくことの重要性が提示されました。

2010年10月には、名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)が開催される予定です。現在、中部・北陸地域では、NPO/NGOによるものを含め、CBD/COP10に向けて、生物多様性の保全に関する様々なセミナー・勉強会などが開催されています。中部地方環境事務所では、こうした様々な取り組みの情報を集約・発信しておりますので(http://chubu.env.go.jp/nature/mat/m_3.html)、これらの情報を参考に、皆さまもセミナーなどに参加されてみてはいかがでしょうか。



藤前干潟エクスカーション

名古屋市の「カウントダウン2010」宣言について

名古屋市環境都市推進部生物多様性企画室



9月13日、エコアジア2008において、名古屋市は環境省・愛知県と共に、「カウントダウン2010」宣言に署名しました。

この宣言は、IUCN(国際自然保護連合)を母体とした国際ネットワークが、政府・地方自治体・NGOなどを対象に、「2010年までに生物多様性の減少速度を顕著に減少させる。」という生物多様性2010年目標の達成に向けた取り組みの1つとして展開しています。参加しようとする団体は2010年目標達成のために、どのような活動を行うかを約束して署名するものです。

カウントダウン2010・ホームページアドレス:

<http://www.countdown2010.net/>

本市が実施する取り組みとして約束した内容は、「COP10の開催援助」、「生物多様性ごや戦略の策定」、「東山の森再発見」の3つです。

今後本市は、2010年に開催されるCOP10のホストシティとして、会議の開催を支援し、会議の成功に向けて国や関係機関をサポートしてまいります。また、「生物多様性ごや戦略」の策定を市民の皆様と共に進め、「身近な自然の保全・再生」と「生活スタイルの転換」という2本柱から、自然と共生する持続可能な都市を実現するための指針を定めます。

さらに、市内に残された貴重な里山である「東山の森」の再生や、その他生物多様性に関わるモデルプロジェクトを市民・企業・行政の協働により実施し、生物多様性に対する関心を市民や事業者の皆様にも広げてまいりたいと考えています。

「エコアジア」に参加して

NPO法人藤前干潟を守る会 辻 淳夫

生物多様性COP10の名古屋開催が決まり、そのプレ会議と位置付けられた「エコアジア」の前夜祭、パネル討論会に参加しました。

UNEP(国連環境計画)親善大使の加藤登紀子さんの歌やトークなど、楽しい話が流れて時間が押し進んでいく。それだけではと、つい成功事例とされる藤前干潟でも渡り鳥が減り続けている現実や、伊勢三河湾の貧酸素水塊でアサリが大量死するといった厳しい課題にも踏み込んで話しましたが、750人もの方々が、最後までしっかり話を聞いてくださって、感動したところです。

エコアジア本会議では、生物多様性条約のジョグラフ事務局長もCOP10への期待を講演され、翌日の藤前干潟エクスカーションでも、干潟保全と、画期的なごみ減量を成し遂げた名古屋市民を高く評価されていました。

韓国でのラムサール条約COP10で世界湿地NGO会議を結成し、アジア代表委員となった私としては、日本のみならず、アジアのNGOや市民社会に生物多様性条約COP10への参加を呼びかけ、条約の目的達成に市民参加が必須と説かれる事務局長の期待に応えたいと考えています。



ジョグラフ生物多様性条約事務局長と藤前干潟にて

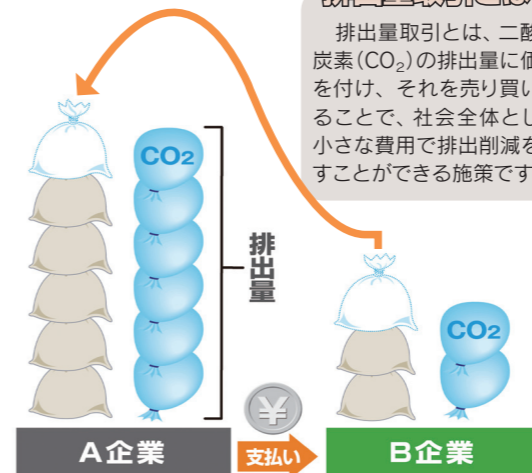
平成9年12月に京都で気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)が開催されたことを契機として、環境省では12月を「地球温暖化防止月間」としています。

排出量取引が試行的に実施されます。

低炭素社会の実現を目指して、本年10月から民間企業の参加による排出量取引の試行的実施を開始しています。詳しい内容は、環境省のホームページ(<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/det/dim/trial.html>)をご覧ください。

排出量取引とは?

排出量取引とは、二酸化炭素(CO₂)の排出量に価格を付け、それを売り買いすることで、社会全体として小さな費用で排出削減を促すことができる施策です。

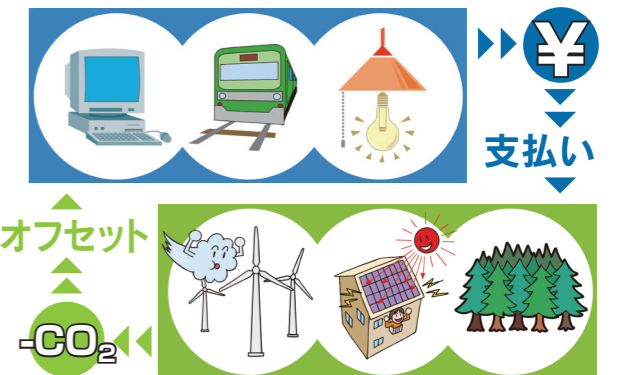


カーボン・オフセットをはじめよう!

カーボン・オフセットとは?

CO₂の排出を削減する努力を行い、それでもどうしても減らせないCO₂の全部・一部を違う場所での削減・吸収量で埋め合わせ(オフセット)することです。

カーボン・オフセットフォーラム(<http://www.j-cof.org/>)では、カーボン・オフセットに関する様々な情報を提供しています。ぜひご利用ください。



CO₂を減らす 地域の隠れた一品を発掘せよ!

～ストップ温暖化「一村一品」大作戦～

「一村一品」大作戦とは、地域の創意工夫を活かした地球温暖化防止のための取り組み(一品)を掘り起こし、これを全国に情報発信することで「知恵の環」を広げ、地域から温暖化防止を進めていくプロジェクトです。

この度、各県の地球温暖化防止活動推進センターが募集した取り組みの中から、中部地方の各県の代表が選ばれました。全国大会は来年2月14日・15日に東京都内で開催され、グランプリを決定します。ホームページ(<http://www.jccca.org/daisakusen/index.html>)からの一般投票は年明けから始まる予定です。

県名	代表団体名	一村一品タイトル
富山県	高岡市伏木校下婦人会	使用済みわりばしの回収リサイクル
石川県	加賀市女性協議会	市民発の食品リサイクルによるCO ₂ 削減
福井県	福井市社北公民館	社北環境まちづくり運動
長野県	白馬環境教育推進協議会	目指せ!エコスキー場。そしてエコビレッジへ
岐阜県	岐阜県立恵那農業高等学校	ゴミの山から宝の山へ 地域産業の課題解決 栗殻の有効利用
愛知県	田原市・NPO法人 田原菜の花エコネットワーク	食糧生産の場 農地を子供たちに引き継ぐために「菜の花エコプロジェクト」
三重県	(各団体の優れた活動を統合したものを代表とするため未定)	みえまるごとエコ生活 「三重モデル」

今年の冬は、「うちから暖めよう」

環境省では「WARMBIZ(ウォーム ビズ)」の取り組みを「オフィス」から「家」に広げ、衣食住を通じて「家(うち)」の中からできる温暖化対策、名付けて「うちエコ!」を推進しています。



- 保温性の高い素材の衣料を選ぶ
- 運動で体の中からあたためる
- 体をあたためる食材を料理に
- 窓からの冷気を防ぐ
- あったか小物で、体のそばからあたためる
- 足元からあたためる
- おふろで体の芯まであたためる
- おしゃれにあたためる
- みんなで集まって食事する
- 会社帰りにウォームビズ

「家(うち)」の中からできる温暖化対策「うちエコ!」
過度な暖房に頼らず、冬は室温「20℃」で、自らあたためる工夫を凝らすさまざまな「うちエコ!」で過ごしましょう。